

ONAIR

NO. **119**

放送大学通信 オン・エア

発行月 2015年8月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
043-276-5111 (総合受付)



CONTENTS

特集：大学院で学ぶ	1
学習センター所長座談会	6
面接授業紹介	10
東京文京学習センター クラス会レポート	13
研究室だより	14
学習センターだより	15
2015年度開設・改訂科目紹介	16
インフォメーション	20

特集

大学院

大学院で学ぶ

昨年10月に念願の放送大学博士後期課程が発足し、24名の社会人学生が学んでいます。生涯学習を進める放送大学に、学部・修士・博士のすべてのステージが整ったのです。

修士課程は、「開かれた大学」として、年齢、性別、職業、居住地域に関係なく、学生が家庭や職場を離れることなく学ぶことができる大学院です。毎年400人を超す全国の学生が入学し、科目を履修するだけでなくそれぞれの研究テーマで修士論文を提出して修士号を取得しています。修士論文の指導は、グループ指導（ゼミ）、対面の個人指導、WEBや電話やメールを使った指導など、学生各々の状況に応じて最適な方法で行っています。

学生たちの多くは社会人として各方面でさまざまな経験を積んできた方々で、探究したいテーマがあって入学しています。このことは通学生大学の若い学生たちとは違うすぐれた特徴です。私たち教員は学生の思いを最大限尊重して、学術研究としての筋道がつけられるよう指導をしています。

学生は、研究計画を立て、資料収集、調査、実験をし、分析して知見を得て論文としてまとめます。大学院で学ぶということは、自分の経験から湧いた問題意識や関心をあいまいにせず、科学的な知識や理論の力を借りて、確実な知見や問題提起に高めていくことです。このように、大学院はきわめて能動的な学びの場なのです。

学生の多くは仕事をもち家庭をもつ人たちです。

時間に追われながらも寸暇を惜しんで研究を進める姿に教員の私たちは頭が下がる思いです。

今後10～20年程度で、半数近くの仕事は自動化され、

子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くと予測されています。つまり現在の職業の多くは、今後なくなっていくのです。このような変化の激しい時代のなかで、高い教養と高度な専門性を持ち、職場で地域でリーダーとして活躍する放送大学大学院出身者がさらに増えていくことを大いに期待しているところです。



放送大学副学長
宮本 みち子

大学院の課程とプログラムについて

放送大学大学院 文化科学研究科文化科学専攻

修士課程

- 生活健康科学プログラム
- 人間発達科学プログラム
- 臨床心理学プログラム
- 社会経営科学プログラム
- 人文学プログラム
- 情報学プログラム
- 自然環境科学プログラム

博士後期課程

- 生活健康科学プログラム
- 人間科学プログラム
- 社会経営科学プログラム
- 人文学プログラム
- 自然科学プログラム

はじまった博士後期課程

2014年10月にスタートした博士後期課程。現在2期生を迎え確実な道のりを歩んでいます。今回は岩永先生から博士課程についての現状と、学生の皆様から博士課程へ進んだ理由などを語っていただきました。

2014年10月1日、本学大学院博士後期課程（以下、博士課程）に待望の第一期生12名が入学しました。長年の懸案であった本学の博士課程が開始されたのです。学位取得への障害が少なく社会人が学びやすい教育システムを、という熱い期待は、本学で学んだ、そして学んでいる学生の皆さんからのみならず、広く社会の各層から寄せられていました。それが実現の運びとなったわけです。日本で先例のない生涯学習型・教養主体の博士課程ということで、開設までの道のりは決して平坦ではありませんでしたが、何とか昨年10月の第一期生の受入にこぎ着けることができました。

生涯学習機関としての本学博士課程の基本理念は、①本学の有するハードとソフトを生かし、広い視野から実践的で高度な社会人研究者の養成を行う、②学位授与に相応しい高度な学問的水準を達成し維持する、③教養教育のための生涯学習機関という社会的使命に基づき、広く社会人にとって学びやすい学修機会を提供する、というものです。博士課程としての高度な学問的水準を維持しつつ、遠隔教育機関としての特性と能力を生かして社会人に広く博士課程の教育機会を開放することが、本学大学院博士課程の最

も重要な使命なのです。

さて、実際に第一期生、第二期生の皆さんと基盤研究や特定研究のゼミで接し、強く感じたのは、その経験の豊かさやそれに基づく思考の柔軟さです。さらに、学びへの謙虚さも特筆



岩永 雅也 教授
人間科学プログラム

すべきでしょう。すでに社会人として多くの業績を持つ学生でも、自分の専門領域であるメジャー分野だけでなく、マイナー分野の学修にも非常に積極的です。そして何よりも、国内各地から幕張本部で行われるスクーリングに欠かさず参加するという学位取得への熱い想いを肌で感じます。

実は、現在の博士課程在籍者の3人に2人が本学修士課程の修了者です。これは高倍率かつ厳正な試験の結果です。もっと外部からの進学者が多いだろうと考えていたわれわれ教員からすれば、驚きの、そして嬉しい結果でした。多くの博士全科生の皆さんが、修士論文の研究をさらに発展深化させるべく励んでいます。学部生、修士生の皆さんも、是非この大きな目標にチャレンジしてください。

博士課程で学ぶ学生から

放送大学博士課程での学び



高尾 淳子 さん
生活健康科学プログラム

私は博士課程にて、修士課程及びそれ以降に重ねた研究を基礎とし、自己の研究テーマに関連する隣接学問領域の研究からも大いに学んで広い視野で学際的に研究する力量を修得したいと望み、第1期生として入学しました。

本学で学び、嬉しい驚きを体験しました。それは、生活健康科学プログラムのほぼ全ての先生の授業が受けられたことです。各学問領域の教授陣が

一堂に会し、同プログラムの第1期生2名の院生の研究をありあるものにしようと議論が展開されました。その中で私た

ち院生は、先生方の熱意と迫力に圧倒されつつも、懸命に参加したのを記憶しています。このような温かい研究指導が受けられることに、感謝しています。

私は現在、すべての子どもの発達保障と保育者の学びに関する研究を進めています。今後は、博士課程での研究を保育の発展に生かしていくことが目標です。



私が博士課程入学を決めた理由



芝田 政之 さん
人間科学プログラム

私は文部科学省における30年余りのキャリアの中で、行政のプロともいえるべき素晴らしい上司に数多くめぐり合いました。その後出向した九州大学には、行政官に負けない研究者出身の一流の経営者がおられました。学問を究めることにより身につく俯瞰力、

分析力、より高い次元に課題を昇華させて判断する力を見つけられました。これこそが学問の底力です。このような社会のどんな分野でも通用する力を身に着けたい。第一の動機です。また、文部科学省で国際部門の仕事に携わることが多く、国際舞台で活躍する外国人の多くが博士の学位を持っていることも強い動機になりました。そして、ともすれば怠惰になりがちなキャリアの最終ステージの自分を叱咤激励したい。第三の動機です。

容易ではありませんが知的刺激に満ちた博士課程で学べる喜びを実感しています。

学べる喜びと温かさを感じて



後藤 信介 さん
社会経営科学プログラム

高校生の夏、防波堤から日本海を眺めながら感じた、海の向こうのユーラシアで交錯する人々のあり方を見つめたいという思いに突き動かされ、大学時代はロシア、ペルシア、イスラームが重なる中央アジアの研究に取り組みました。博士一貫課程に

いったんは進んだのですが、奨学金不採用の通知が届き、当時の私は独力での学業継続は困難と判断し、院から退くことを決めました。稼働と学業を両立できる環境を模索し、ようやく辿り着いたのが放送大学大学院でした。現在は高橋和夫先生のもとで、サイバー攻撃や核開発から見るイランとロシアとの国際関係を研究しています。高橋先生をはじめ、社会経営科学プログラムの諸先生は温かい雰囲気でご指導くださいます。自分の論の至らなさに対峙し、調査を積み重ねる日々ですが、こうして再び学べることへの喜びを感じない日はありません。

最前線に立つ光栄



神谷 光信 さん
人文学プログラム

東日本大震災に震撼し、深刻な思想的動揺を経験した結果、自己の精神的改鑄の必要性を痛感して大学院に入学した。修士論文を完成させ、自らを人文学徒として再定義した結果、この国の教育現場に社会人研究者として骨を埋めるべく博士課程に進学

した。危機の時代における人文学研究とはいかなる営為なのか。現実から遊離した価値超越的研究はあり得ず、言語芸術即ち文学テキストのポリティカル分析は、それ自体が現実変革のための社会的実践である。その真実に改めて目を開かされたのは、美学・芸術学、国文学に加えて政治学の先生方三人からも指導を受けるカリキュラムの賜物である。博士論文は研究者としての第一歩。国内の現場という最前線にありながら、知的領域の開拓者として海外の学者とも最前線で協同する。その光栄と責務に圧倒される思いである。

相談できる環境って素晴らしい！



北野 雅人 さん
自然科学プログラム

博士課程を受験したのは恩師である東正剛先生（北海道大学名誉教授）に勧められたことがきっかけでした。私は建設業の企業で都市鳥類の研究を行っていますが、本分野で社会人ドクターを受け入れている大学はなく、社会人ドクターを前提とした博士課程の

募集を知り渡りに船と思い受験することを決めました。

入学してからは先生方から頻繁にアドバイスをいただき軌道修正しながら研究を進めています。建設業にも関わらず鳥を研究しているため同じ分野の研究員が社内には当然おらず、また同僚からは「趣味が仕事になっていいね」的な嫌味も言われ（間違いではないが…）肩身の狭い思いをしながら寂しく研究していたため、研究内容などを相談できる先生方の存在をとても頼もしく感じながら論文投稿を目指し研究しています。きっちり3年で学位を取れるよう頑張ります。

修士課程の紹介

大学院では指導教員のもとで各自の論文のテーマが議論され、その完成に向けて努力していきます。修士課程のプログラムは7つ。各プログラムの魅力について、教員の先生方に語っていただきました。

生活健康科学 石丸 昌彦 教授

生活健康科学プログラムは、学部の「生活と福祉」コースと同じく、生活・福祉・健康の三領域から成っています。このうち健康は医療・看護・体育などを含む複合的な領域であり、生活や福祉も実際にカバーする分野は広く多彩です。こうした分野で現に活躍しており、自

身の経験や考えを学問的に深く掘りさげてみたい人、殊に自身のフィールドをもっている人には、当プログラムはうってつけの環境を提供するでしょう。

ただ、これに限るものではありません。上述の内容は、今日のすべての生活者に共通する関心事でもあります。明確なテーマと方法論をもつ人なら、誰でも歓迎です。



人間発達科学 森 津太子 教授

人間発達科学プログラムは、教育学と心理学を基盤とした科学的研究手法を用いて、ヒトが人へと発達する過程で直面する様々な課題を研究対象としています。約5割を占める小・中・高校の教員をはじめとして、学生一人一人が、各々の職場で解決を願う、具体的な問題を

携えて入学してきますので、学生が顔を合わせれば、そこには自ずと熱い議論が生まれます。それはゼミ後の懇親会にまで続きます。たとえ職場や研究テーマが異なっても、志さえあれば通じるものがあるのだと、いつも感心をしているところです。是非、この熱い議論の輪に、多くの方に加わっていただきたいと思っています。



臨床心理学 倉光 修 教授

本プログラムで臨床心理学を学ぼうとする人の多くは、「臨床心理士」の資格取得を目指している。臨床心理士の仕事は、心理査定、臨床心理面接、臨床心理的地域援助、調査・研究などである。これらは、互いに重なり合う部分を持っている。たとえば、絵画を用いた査定技法は

心理療法の要素を含むことが多いし、修士論文でインタビュー調査や事例研究を行う場合は、指導を受ける過程でカウンセリングのエッセンスを部分的に体得する人もいる。本プログラムではこうした技能を身につけた人材を養成するため、専任教員と各地の大学教員や臨床心理士が緊密に連携して、システムの充実をはかっている。



社会経営科学 森岡 清志 教授

社会経営科学プログラムには、社会科学的分野（社会学・経済学・法学・政治学・国際関係論・経営学・産業論）と社会技術的分野（環境工学・建築学）に含まれる領域を専門とする先生方が集まっています。たいへん幅広い学問領域をカバーするプログラムですから、

まずはどのようなテーマで研究し、どの先生の指導を受けるのが良いのか、この点を各自で固めることが重要です。また社会技術的分野に関心をもつ方も、研究視点に社会との関わりを含むことが求められます。問題関心は幅広くても、研究テーマは限定させること、先行研究の成果を踏まえることに、ぜひ留意してください。



人文学

宮下 志朗 教授

「人文学」は、英語ではThe Humanitiesといいます。humanityは「人間らしさ」とか「人類」のほかに「人情、慈愛」といった意味もあります。複数形が「人文学」で、「慈善行為」の意味でも使われます。中世ヨーロッパで誕生した「大学」では、「人間らしさ」という理想を求めて、学びはやがてギリシア・ローマという古典古代の英知の探究へと向かいます。これが「フマニタス」、英語

の「ヒューマニティーズ」です。「温故知新」（『論語』）というように、洋の東西を問わず、人々は古いことを学ぶことから、新たな知見を得てきました。昨今、効率重視の実学がもてはやされ、「人文学」は守勢です。けれども、人類が長い時間をかけて積み重ねてきた知的・文化的な営為を、いわば人間存在の証として学ぶことが軽視されてはなりません。じっくりと思索をめぐらし、一生ものの英知を身につけようではありませんか。



情報学

山田 恒夫 教授

情報学プログラムでは、文化科学研究科における情報学という特色を生かした運営をしています。より広い見識を背景に情報通信技術（ICT）を扱ったり、情報学の観点も活用して社会・文化・自然のさまざまな現象にアプローチしたり、多角的な視野と広い教養を身に着けた専門家の育成をめざします。

また、放送大学大学院修士課程でもっとも新しいプロ

グラムで、進取の氣勢も旺盛です。オンライン授業科目、キャンパスネットワークを活用した遠隔指導、オープンコースウェア（OCW）やMOOCなど、ICTを活用した遠隔教育にも積極的に取り組みますが、学習センターにおける実習型面接授業や合同ゼミも重視し、リアル空間・サイバー空間の双方に対処でき活躍できる人材の輩出を期待しています。



自然環境科学

隈部 正博 教授

自然環境科学プログラムでは、自然科学の各分野、数学、物理、化学、生物、宇宙、地球科学での研究をベースにしています。また自然科学の立場で、環境問題に関する研究も受け入れています。学部での授業や社会生活などを通して、自分なりに考えたこと、さらに知りたいなどと思ったことを、大学院に進んでより深く学んでみませんか。修士課程では、まず本を読むことで体系化され

た知識を習得します。これだけでもかなり深く学ぶことができます。そして自分の研究課題に対してどのような先行研究があるかを調べます。それらを通して、自分の考えを客観的にみて、自分の研究が学問全体の中でどのような位置にあるのかを知ることができます。そうすれば新たな知識を様々な角度から得ることができるでしょう。そして満足いく修士論文を書いて、入学前とは違う自分を体験してください。



学生論文集「Open Forum 第11号」発行

このたびOpen Forum第11号を発行しました。本書は、大学院修士課程2013年度修了生の修士論文を基にした論文集です。

放送大学大学院の学生たちは、どのような環境で、どのような目標を立てて学んでいるのか？ どのような形で教員の指導が行われているのか？ 学生による研究の成果にはどのようなものがあるのか？ —— Open Forumはこのような疑問に具体的にお答えする媒体です。各学習センターで閲覧できますので、ご興味のある方はぜひこの冊子を手にとってご覧ください。また、各学習センター・本部（郵送のみ）において販売も行っています。



価格
927円(税込)
本学学生価格 742円(税込)



大学における教養、“学び”とは？

梅澤 章男 福井学習センター所長(心理学)
 安原 義仁 広島学習センター所長(西洋教育史)
 菊川 律子 福岡学習センター所長(生涯学習)
 司会
 岡崎 友典 准教授(教育社会学)



(左から)菊川律子所長、安原義仁所長、
 岡崎友典准教授、梅澤章男所長

“教養って何?” “大学で学ぶってどういうこと?”。皆さんはそんな素朴な疑問をお持ちになったことはありませんか。今回の座談会のテーマは、「大学における教養、“学び”とは?」。岡崎友典准教授の司会進行のもと、福井・広島・福岡の学習センター所長の先生方から、どんなお話が飛び出したのでしょうか。その模様を誌上にてお伝えします。※本文中は敬称略とさせていただきます。

教養とは、自分の関心を 他者に結びつける力

岡崎 本日は、お集まりいただきありがとうございます。早速ですが座談会を始めたいと思います。テーマは「大学における教養、“学び”とは?」。放送大学は教養学部だけの大学です。安原先生はこの点についてどんなご意見をお持ちでしょう。



安原義仁所長

安原 放送大学は教養学部だけで成り立っているだけに、そもそも教養とは、教養教育とは何か—を常に考えなくてはならない宿命を背負っています。その際に参考となるのが、教養学部を設けている東京大学、埼玉大学、“教養”と類似の“リベラルアーツ”学部を設ける国際基督教大学、大学名に“教養”を冠した国際教養大学秋田などです。これらの大学では教養をどう捉え、どのような理念のもとカリキュラムを組んでいるのか。同時に、“教養”の概念を生んだ英米の大学の歴史か

ら学ぶ必要もあります。その上で、放送大学の教養学部は何を目指すのか、を教員全員で議論して一定の合意を得る努力をすべきだと思います。

岡崎 放送大学は、高等教育の機会をあまねく国民に、を理念に30数年やってきました。時代の要請に応え、コースやカリキュラムの改編・新設など試行錯誤を繰り返しながら。でも、そもそも教養とは何か、の議論は充分ではなかったのかもしれない。菊川先生はいかがでしょう。

菊川 放送大学の学生は多世代にわたり、学ぶ目的もキャリアも多様です。昨年秋にこちらに参りましたが、そういう多様な方々の学ばれる姿を見て“学び”が生きていく上でのツール、もしくは“杖”になっているのではと思いました。資格を取るため、就活のためでしたら高齢者の方々には説明が付きません。人生の来し方を振り返り、総括し、これからも意欲を持って元気に生きていく。その時に“学び”を通して得られる教養は非常に大きな意味を持つのではないのでしょうか。放送大学30周年の標語は「学ぶ。世界が変わる」でした。まさにその通りで、

ら学ぶ必要もあります。その上で、放送大学の教養学部は何を目指すのか、を教員全員で議論して一定の合意を得る努力をすべきだと思います。

「学ぶことで世界を見るこちら側の目が変わる」と私は受け取りました。成人にとっての教養は生きていく上で必須のもので、若い方が社会に出るのに必要な教養とは違う意味があると考えます。

岡崎 若い方は卒業するための学力取得が大きな目的ですが、高齢者の方々には生涯学習という側面が強くある。おっしゃる通り、世代間によって教養の持つ意味は違うようです。梅澤先生、いかがでしょう。先生は福井大学で長いこと若い人を指導されてこられました。

梅澤 通学制の大学では、講義中にかなりの学生が居眠りします。なぜ寝るのかと聞くと、卒業のために出席はするが、なぜこの科目を受講するのか学ぶ意義が分からない、と。ところが放送大学で面接授業を持ったところ、その違いは歴然でした。8コマの授業を集中で行う。学生は長時間、聴講しなければなりません。が、寝る人はいない。その理由を尋ねると、自分はここが面白いからこの授業をとったんだ、と学ぶ意義の説明ができます。おそらく教養とは…仮に自分の不得手な話を聞いても、それを自分の関心なりを広げるものとして自分に引きつけて考えられる、そういう力だと思いますね。自分の関心と他者とのつながりを作ることができる力、それが教養…。残念ながら、そういう力を持つ若い人は極めて稀です。未知の世界に関心が常に開いている…そういう姿になかなかならない。そこで通学制の大学では講義型授業に加え、アクティブラーニング…課題を自分で設定して追求する能動的学習というものを始めています。一方、放送大学の放送授業は伝統的な講義型授業ですが、ちゃんと成り立っているのも凄いなと思います。学生に力があるからです。

菊川 その「他者につなげる力」は、新しく得た知識を自分の中で再構築できる力、とも言えます。この能力は、若い人より経験豊かな分だけ大人の方が長けています。それだけに大人はより正しく確かな知識を求めます。多少面白みに欠けた授業でもしっかりした内容であれば、放送大学の学生にとっては“学び”の励みになります。

安原 アクティブラーニングについては、今頃そんな議論をしているのか、というのが私の率直な感想

です。「ハーバード白熱教室」で火が点きましたが、英米の大学では当たり前のこと。学生に本を読ませ、議論させ、エッセーを書かせ…その積み重ねが大学教育のエッセンスだと思う私には、遅きに失する、と。日本の大学は講義重視型で、決まった知識を教師が学生に流し込むというスタイルでずっとやってきた。明らかに国際標準と違っています。

岡崎 面接授業の中にはアクティブラーニングに近いものがあるとは言えませんか。

安原 放送大学の面接授業の多くはやはり講義型で、知識詰め込み型の受動的学習になっているのではないのでしょうか。双方向型の学習を可能にするゼミなどをもっと取り入れたいですね。

カリキュラムの柔軟化か、 学び方の柔軟化か

岡崎 今、面接授業は地域性重視で展開しています。学生は集まりますが、一方で教養として一定の学問体系を積み上げていくことも求められます。学生の多様なニーズに応えるのは容易ではありません。

安原 放送大学には「大学」、「生涯学習機関」、そしてメディアを使う「遠隔高等教育機関」の3つの側面があります。実はカリキュラムに関しては、放送大学を「大学」と捉えるか「生涯学習機関」とするかでアプローチの違いがあると考えています。前者は、教える側が明白な教育する意図を持ち、教員がカリキュラムを設計する。ところが後者の視点に立つと、すでに成熟し、豊かな社会経験を積まれた方々が学ぶ訳ですから、基本的にカリキュラムは要らない。自分で学びたいものを学べばよい。放送大学は科目と講師を用意するだけ。カルチャーセンターに近いイメージです。このことを前提として、学生の多様なニーズに応えるためには、二つの考え方があります。一つはカリキュラムを弾力化する、というもの。しかし「大学」に軸足を置くと自ずと限界がある。カリキュラムは知識を体系的に学んでいくためにあるもので、社会人だから高齢者だから



岡崎 友典 准教授

と特別に作っていい性質のものではありません。もう一つの考え方は、カリキュラムに従って学ぶ、その学び方を弾力化するというもの。例えばフルタイムでの就学が難しい社会人はパートタイムで、Face to Faceで学べないならメディアを駆使して、といった具合に。…放送大学は「大学」か「生涯学習機関」か、カリキュラムの弾力化か、学び方の弾力化か、ここの整理が大事だと思います。

菊川 そうですね。ただ「生涯学習機関」はいくらでもあります。平成初期に生涯学習は“イキイキ学習”と盛んに喧伝されましたが、そこでは自分の好きなものだけアラカルトに選んでいい。それは楽しい。でもその学習は放送大学の授業とは違います。学生の皆さんは、きちんとした一つの学問体系を得ようと勉強されています。時には苦しい。単位認定試験の問題は結構難しいので、どの位の人が受験されるのか調べると福岡は8割を超えていました。難しいけれどチャレンジする。そのことに多くの方が喜びを見出そうとされます。試験には成人が苦手とされる短期記憶が必要ですが、皆さん、そこを克服してチャレンジされている。その“学び”こそが、その人の能力を維持向上させる、その人自身を育てている。少なくとも生きていく上での自信にはなっている、と。

梅澤 私の専門の心理学で言うと、心理学実験はとても人気が高く、多くの学生がなるべく早く取ろうと参加されます。が、本当は心理学をある程度学んでから来てほしい。予備知識がないと教える側も学生も大変です。シラバスにも“これらの科目を履修してからが望ましい”とありますが、条件ではありません。ただ、学問体系として“学び”の成果を得

るなら、カリキュラムには従ってほしい。そして更なる成果として卒業研究に挑み、ご自身の関心の行き着く先を存分に探求していただきたい。

岡崎 “望ましい”を“条件”に厳格化することは難しい。でも“指針”として考えないと、カリキュラムは十分に機能しませんね。

安原 学問領域によっても違ってきます。医学や工学など基礎から積み上げていく領域もあれば、そうでもない領域もあります。カリキュラム構築には、Scope & Sequence（広がりと順序）の視点に加えて授業形態（講義か、演習か実験か）の視点も必要です。

大学での“学び”とは、 自身の体験を対象化し 学問体系の中に位置づけること

岡崎 安原先生のご専門である教育学については、学生にどのように学んでほしいとお考えですか。

安原 教育学の分野は、どうしてもこれだけは履修しないと先に進めないといったものでもありません。また“一億総教育評論家”と呼ばれるように、誰もがご自身の教育体験をもとに教育を語ることが出来ます。そのため、放送大学で学ぶことは、ご自身の教育体験を客観化し体系化するチャンスと捉えてほしい。

岡崎 ご自身の体験を対象化して科学的に学ぶということですね。菊川先生はいかがでしょう。先生は、福岡県の義務教育課長として教員の研修指導に当たられました。

菊川 放送大学の〈心理と教育コース〉は、教員の現職研修にこれほど役立つものはない、と考えており、県の教育センターでの研究をお願いしているところです。現場の先生方は、とにかく忙しい。日々の課題に対応するだけで精一杯。そのうちに、昔学んだことは記憶の底に眠ったまま。それも古くなるばかりです。自分の日々の実践を放送大学のカリキュラムで体系的に学び直すとどうなるか、新しい知見や実践を採り入れるのにこの教材は打ってつけです。しかも、インターネットで学ぶことができる。これは忙しい現場の教員にとっては福音です。

岡崎 現場の先生の中には、すでに学士号を取った



からもういい、と学び直しに二の足を踏まれる方も。そうじゃないのですよね。

菊川 学べば悩みは解決します。悩む暇があったら勉強しなさいと。このことはどの職業の方にも言えますが、教員は研修が義務化されているだけ学び直しの志は必要と思います。



梅澤 大学院で現職の教員の方を指導しましたが、一般学生とは食いつき方がまるで違いました。自分の経験なりを対象化するために授業を使っている。そして、明確な目的を持っていた。

思春期の子どもの心理を知りたい、道徳主任になったので道徳教育について学びたい。子どもはどうやって理解するのか認知の部分にこだわりを持つ方もいらした。そのニーズに応えることはもちろんですが、私たちにはさらにその先—その教員が新たに得た知見なりをクラスで実践する—まで指導する使命があります。授業の真価がここに問われるのです。そのためには、教員個々の“学び”に寄り添うサポーター的な役割や充分な演習が必要となりますが、放送大学の教育システムはその点が不十分です。彼らの個々の疑問に答え、きちんと教壇に返す。それはネットを駆使しても追いつきません。

大学での“学び”とは、 教材以外の文献に触れ、 議論しながら真実を追求すること

安原 オンライン授業は放送大学が追求すべき重要な課題ですが、確かにまだ、双方向性でアクティブラーニングができる段階まで至っていません。ただ、その話以前に、学生の学び方について疑問に思うことがあります。放送大学の学生のモチベーションの高さはまったく異論のないところですが、大学での“学び”とは、正解の書いてあるテキストをひたすら読み、授業をひたすら聴くことだと多くの方が思っておられるような印象があります。その方々の多くは高校までの教育体験しかお持ちでないので無理からぬことですが、大学での“学び”には、それに加えていろいろな文献を読み漁り、仲間と議論

しながら、しかるべき方法に基づいて、より確かな真実を探究していく、という姿勢が求められます。私は「学びの技法」という所長ゼミを行ったことがあります。「大学での学びと高校の学びの違い」から始まって、テーマをどうやって探すか、参考文献はどうみつけるか、そして「レポートの書き方」まで、こと細かく取り上げました。実は英国のOU（Open University）ではそういうもの（Study Skill）が教材として用意されています。

岡崎 そういう“学び”のHow to的なものが放送大学にもあるといいですね。さて、時間が来てしまいました。最後にひとことずつ…。

梅澤 通学制の大学、とりわけ教育系の大学では、卒業研究をととても重視しています。卒業研究でようやく巣立つ、という考えです。翻って放送大学は学生の卒業研究の選択率が極めて低い。放送大学は修士課程を、その上に博士課程を、と発展してきましたが、卒業研究はそのスタートラインです。早い段階で演習科目を積み上げ、自分の関心をクリアにして卒業研究にチャレンジしてほしいと切に願います。

安原 放送大学は英国のOUから多くのことを学び、英語名も“The Open University of Japan”です。この“Open”には「いつでも誰でもどこでも」のほかに、「教育の新しい理念や方法に開かれている」という意味も含まれます。つまり、放送大学には大学教育の実験と革新を試みるという使命がある。ICT等々多様なメディアを活用して実験と革新に挑戦する大学になってほしいと思います。

菊川 今、日本は高齢社会をいかに持続可能で豊かなものにするかという課題に直面しています。その一つの答えとして“学び”があります。文科省による「早寝早起き朝ごはん」国民運動はシンプルですが、目に見える効果を出しています。同じように、「学びが日本を救う」というメッセージを発信してほしい。高齢者、特に後期高齢者の方が人生を振り返り受容していく時に、“学び”はその人の原動力となるはずです。

岡崎 貴重なお話をありがとうございました。



面接授業へのいざない

—地域学習センターいきいき授業—

面接授業は、全国の学習センターで年間約3,000クラスを開講しています。中でもユニークな面接授業をいくつかご紹介します。

全国の面接授業 ①

東京 渋谷 学習センター



あらゆるシーンで活躍する物理学

担当講師/鹿児島 誠一(明治大学特任教授)

実施日/2015年6月13日・14日・20日・21日

宇宙エレベータを作れば、ロケット打ち上げのリスクなしに、上空数万kmの宇宙ステーションまで往復できるのか？ 弥生時代の始期が、なぜ500年さかのぼることになったのか？ ヤモリはなぜ垂直の窓ガラスや天井にぶら下がるのか？ 2万7000km上空の人工衛星を使って、なぜあれほど精密に位置を決められるのか？ これらのことがらの背景には、力学、電磁気学のほか、相対性理論、量子力学、ナノ科学、高エネルギー物理学などの現代物理学の活躍があります。物理は机上の学問ではなく、あらゆることがらを対象としてその仕組みと働きの「なぜ」に答えることを目指すものです。授業では「宇宙エレベータ構想と円運動の力学」、「考古学や犯罪捜査と物理の実験設備」、「ヤモリと量子力学」「GPSと特殊・一般相対性理論」の4つのテーマをと

りあげ、それぞれのことがらを概観したうえで、その背景にある物理を考察しました。

受講者の感想

・私が今まで学んできた物理というものは式を作り、計算をすることが主でした。しかし、この授業では「宇宙エレベータの夢」や「ガラス窓をのぼるヤモリ」など、興味が持てるテーマを題材とし、物理学を身近に感じることができました。

・普段の生活において、必要不可欠なものの中に物理学が様々な形で入り込んでいることが、授業を受けて改めて感じました。特に、GPSに相対性理論が使用されていることを知った時には、正直驚きました。



全国の面接授業 ②

神奈川 学習センター



南極から丹沢までの地質学

担当講師/石川 正弘(横浜国立大学教授)

実施日/2015年6月5日・6日

大陸地殻、島弧地殻、海洋地殻の成長という視点から、南極大陸、オマーンオフィオライト、丹沢山地周辺などを題材として講義を行います。

南極大陸に関する講義部分では、地質に加えて調査の様子を紹介します。昭和基地から約500km離れた内陸山地において3ヶ月テント生活で地質調査を行っていることはあまり知られていません。一般的な南極観測隊の調査行動とは異なるので興味を持っていただけたと思います。これまで4度、南極大陸での地質調査に参加しましたので、質問は幅広く歓迎します。

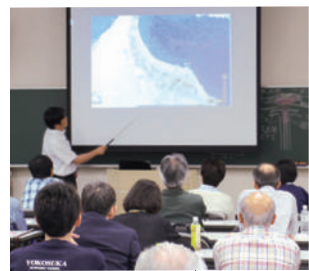
オマーンオフィオライトに関する講義部分では、中東オマーンにおける地質を写真で紹介します。オマーンは海洋地殻～モホ面～マントルの断面が観察できる学術的に貴重な場所です。私は初めてオマーン調査に行った時に感動しました。受講後は、皆さんも、オマーンに興味を抱き、地

質観察に行きたくと思います。

丹沢周辺部に関する講義部分では、丹沢の地質と島弧-島弧衝突帯の地殻深部構造について取り上げ、地質学と地震学の分野横断的視点から関東地震震源域の特殊なテクトニックセッティングについて解説します。

受講者の感想

石川先生の面接授業は人間味溢れるあたたかい授業でした。私の愚問珍問にも親切丁寧に答えをいただきました。私たちには到底体験できない、先生の南極での活動の数々は驚きの連続でした。毎日のように地震や火山活動などの不安な情報が飛び交っています。今、地球の内部では何が起きているのか、将来何が起きようとしているのか。先生はそのことについても詳しくお話をされました。先生の素晴らしい面接授業を皆さんにもお薦めします。(藤本節男さん)





だまされる脳—錯視と錯聴

担当講師/渡邊 志(静岡産業大学情報学部准教授)

実施日/2015年6月27日・28日

「だまされる脳」と聞くと、あまり良い印象がないかもしれませんが、現実にはそれを応用したヴァーチャル・リアリティ(VR)として世の中の役に立っております。例えば電子マネーなどはその最たるものではないでしょうか。本授業は、人間の視覚・聴覚(錯視や錯聴)を中心として、実際に見聞していただくことを通じて脳が「だまされる」ことを体感していただきます。そのようなことを通じて、いかに脳が「だまされる」のかについて学習し、感覚情報処理やVRへの入門として展開していくつもりです。また、人間の情報処理を真似してコンピュータは作られています。感覚情報



処理を学ぶことはコンピュータの理解に通じていくということも意識していただきながら学習していただけますと幸いです。



受講者の感想

「だまされる脳」というユニークなタイトルに魅せられて現代医学で最も未解明な点の多い脳の分野にどこまで踏み込むか興味があった。網膜は二次元しか投影しない、三次元は脳が働いていること。錯視の「色の残効」現象。錯聴では「人口内耳」は脳が自発的に神経回路を作る能力があることなど、脳の補完能力のすごさには驚くばかり。知らないことを知る楽しさは、実に愉快でした。(久米定夫さん)



PCRによる組換え遺伝子の検出

担当講師/細田 晃文(名城大学准教授)

実施日/2015年6月27日・28日

遺伝子の本体であるDNAは生命現象の根幹をなす分子で、ワトソンとクリックによるDNA二重らせん構造の発見は分子生物学分野を発展させる大発見でした。また、PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)は微量のDNAを短時間で数百万倍に増幅する画期的な技術で、動植物、微生物の分類や作物・食品に含まれる特定遺伝子の検出等に利用されています。

本講義では、よく使われる実験手法により遺伝子組換え大豆と市販の豆腐からDNAを抽出し、それを鋳型とした特定DNA断片をPCRにより増幅し、そのDNA断片を電気泳動、組換え体DNAを検出する実験を行いました。20代から60代の方々が2日間にわたって受講され、細胞の中に在る遺伝子を取り出す操作等を楽しみながら(いや、視力と闘いながら?)実験され、受講者全員がDNA抽出と組換え体DNA検出に成功しました。各実験の合間には、DNA抽出、PCR、電気泳動の原理や実験操作の意味

についての解説に加え、実験手法の応用例を紹介し、実験結果に対する簡単な考察をしました。

受講者の感想

テレビで見る科捜研のような講座名に飛び付きました。このような分野には目が向かなかった私ですが、「遺伝子の検出」を理論だけでなく実験・実習によって体験できる貴重な機会と思い受講しました。このような実験の経験が全くないのが不安でしたが、先生や助手の方々のお陰で実習を進めることができました。μLなどという微量な溶液を採り、操作を繰り返すなど僅かではあるが研究などの現場が見え、そのメカニズムの理解を深めることができました。(日比野和美さん)





路—北九州の人々の歩みと交流

担当講師/松井 和幸(北九州市立いのちのたび博物館 歴史課長)
実施日/2015年5月30日・31日

平成14年11月3日にオープンした北九州市立いのちのたび博物館(自然史・歴史博物館)は、自然史、歴史、考古の3館が新しく統合されて出来た総合博物館です。このうち、歴史と考古が一緒になって展示を行っている歴史のテーマ館は、「路」をテーマとしています。これは、北九州が中国大陸や朝鮮半島に近く、また九州と本州とを結ぶ交通の要衝に位置していることから、古くから海路や陸路を通じて多くの人々や物がこの地域を行き交い、各時代を通して日本の経済や文化に大きな役割を果たしてきたからです。

今回の講義では、このような地勢とともに育まれてきた北九州の文化や歴史を、縄文時代から近代社会までを通して見ることにしました。文化、歴史の「路」であるという地理的位置関係から考えれば、単なる北九州の地域史ではなく、東アジア史の流れの一端も垣間見ることができるのではな

いかと思われます。

● 受講者の感想

今回の「いのちのたび博物館」(北九州市自然史・歴史博物館)での面接授業は、縄文・弥生時代から江戸・明治に至るま

で範囲が広く、頭が容易にタイムスリップしてくれませんでした。しかし、北九州に生まれ育ち、今日に至っていますが、この歳になって初めて知ることも多く、大変勉強になりました。また、博物館に展示されている資料などを使った説明は分かりやすく、大いに興味の沸くものでした。新たな視点でふると北九州を見つめ直したいと思います。



憲法9条を考える

担当講師/吉岡 剛彦(佐賀大学文化教育学部准教授)
実施日/2015年6月20日・21日

本講は、おりしも国会で審議中の集団的自衛権法制化について賛否が激しく闘われる状況下で開講されました。

授業では、はじめに、日本国憲法9条(戦争・軍隊の放棄)の理念を確認し、同条をめぐる戦後史について占領下での憲法制定過程やアジア太平洋戦争への戦争責任論をふくめて回顧しました。そのうえで、自衛隊に関する憲法学説や、東西冷戦後における自衛隊の活動拡大について考察し、さらに、日米安全保障条約にもとづくアメリカ軍の駐留にも眼を向けました。そのなかでは、集団的自衛権の解説を行なうとともに、その行使を可能にしようとする今次の安保法案についても適宜に説明を加えました。また、特に基地負担が集中する沖縄にも焦点を合わせ、沖縄戦や、戦後の基地用地の接收、普天間飛行場の辺野古移設問題についても概観しました。講義後半では、9条改定(憲法改正)の是非を取り上げ、国防軍の創設を提唱する改憲案を紹介するとともに、「人間の安全保障」論に言及しつ

つ現行憲法が謳う「平和的生存権」を現代的に活かしていく方途も検討しました。

講義担当者としては、憲法9条を理論的・歴史的に掘り下

げつつ、同時に、現在まさに目前で進行中の政治動向にも意を配るよう努めました。今こそ憲法を学び直したいという受講者の熱意を感じる面接授業でした。

● 受講者の感想

憲法9条の成立経緯や解釈の変遷、世界情勢の変化と現在の改憲論議まで、多角的かつ中立的な視点から学習できました。「新しい安全保障」から憲法9条を捉え直す視点は、今後の論議を考える上で覚えておきたいと思います。(南里瑛賢さん)





東京文京学習センターで 初めての「クラス会」がスタート!



スタートした「クラス会」

5月31日、東京文京学習センターで、4月入学の全科履修生を対象とした「クラス会」が催されました。放送大学は通信制の大学のため、自分のペースで目的に沿った学びができますが、学生同士が交流する機会が少なく、学びについて不安や悩みを感じる学生が多くいます。そこで、同じ時期に入学した学生が無事に卒業できるよう学生同士のつながりを深め、学びに関する不安や悩みを相談したり、意見交換が出来る場としてこのクラス会が企画されました。

参加者からは「不安が多くて分からないことも多かったので参加して良かった」、「今日は知り合いの方が出来たので、今後この輪を拓けていきたいなと思います」、「卒論のことで悩んでいたのですが、進め方やテーマの決め方など、次のステップに繋がる事が出来ました」といった意見を聞くことができました。



づくりの場になったらと。クラス会を活かす色々なアイデアが芽生えることに期待したいと思います。」



岡部学長が応援に駆けつけました

「ぜひこういう会を積極的に利用して、お友達を作って頂きたい。クラス会はそのような役割が大きいのではないかと思います。学歌を歌ってみると『“見えない友と”と』…」



岡部 洋学長

と云う言葉があります。クラス会に参加することで、この“見えない友”がどこかにいるということがリアルに感じられるようになります。それが勉強を強くプロモートするのです。」



「クラス会」の今後



東京文京学習センターでは、愛知学習センターで2009年から行われているクラス会を参考に半年前から準備を進めてきました。動き出した新入生のためのクラス会。目指すのは、学生自身の手で作って行くクラス会です。4月入学のクラス会は今年度中にとあと3回開催されることになっており、来年2月予定の4回目の会合では、10月入学生によって組織されるクラス会と合同で実施される予定です。

今後、クラス会は学期毎に誕生してゆく予定で、学生同士の輪をさらに広げてゆきます。



クラス会支援委員長 中村 由美さん



「岡野所長から“文京で初めて、横の繋がりを作るクラス会を企画したい”というお話を頂いたのが昨秋です。その話を聞いて、とても賛同しました。最初の段階は、クラス会支援委員会も伴走者のように寄り添います。私の感覚では、知的好奇心を刺激し合う学友



日本語とコミュニケーション

人間と文化コース・
人文学プログラム 教授 滝浦 真人

私は「言語学科」の出身です。大学院生時代は「失語症」を対象として、脳の損傷で言語の運用がどう壊されるか？を研究していましたが、しばらくして関心がちょうど反転する具合となり、何が人と人のコミュニケーションを成り立たせているか？を探りたくなりました。それ以来、言語が持つ対人的な機能を中心に研究しています。

「ポライトネス」という言葉は初耳かもしれません。「言語的対人配慮」といった意味ですが、日本語で配慮というと敬語のような丁寧さの方だけに意識が行きがちです。でも「ポライトネス」の考え方は、人を“敬して避ける”遠慮も、“仲間として近づく”共感も、等しく意味のある対人配慮だと捉えます。日本語の「標準語」は、百年ほど前に人為的に定められ、「作法」のように学校で教えられ、おかげで日本全国に定着しました。しかし「作法」の力を頼った



これまでに書いた著作

ツケとして、かしこまった敬語は発達しても、上手に親しさを伝える言葉は発達しませんでした。社会が大きく変わった現在、日本語のポライトネスにも変化の兆しが見えています。

今年度開設科目で大橋先生と共同で制作した「日本語とコミュニケーション」には、こうした自分の研究から得られた観点がたくさん含まれています。これから日本語がコミュニケーション上手な言語になるには何が必要かも考えようとしています。日本語とコミュニケーションに関心のある皆さん、ぜひ見てください！

「脳にやさしい」音環境をさぐる

情報コース・
情報学プログラム 教授 仁科 エミ

私たちはさまざまな音に囲まれて生活しています。新しく登場したシステムで改めて調べ直すと、気持ちよく聴こえる音の中に、周波数が高すぎて人間に音として聴こえない高周波を含むものがあることがわかりました。しかし、人間に聴こえる周波数の上限は、20キロヘルツに達しません。

この聴こえない高周波を含む音を浴びると、間脳、中脳、前頭前野などから構成され、生命維持や美と感動を司る基幹脳ネットワークの活性が増大することを私たちは見出しました。それを反映して、領域脳血流や脳波α波の増大、NK細胞など免疫活性の増大、ストレス性ホルモンの減少、超高周波を含む音のより美しく感動的な聴取、刺激に対する接近行動なども見出されました。これらの原理の異なる複数の効果を総称して、＜ハイパーソニック・エフェクト＞と名づけています。

こうした効果をもつ超高周波成分は、人類の進化の舞台といわれる熱帯雨林の自然環境音、バリ島の



環境音収録のために滞在したアフリカ・カメルーン バカ人の集落にて

ガムラン音楽、日本の琵琶や尺八などに豊富に含まれる一方、都市環境音やデジタル放送の音声には含まれないことが確認されています。そこで、より生理的負担が小さい「脳にやさしい」情報環境を実現するために、熱帯雨林から先端メディア環境、多様な文化圏の音楽などを対象に、その情報構造を分析するとともに、超高周波を都市情報環境に補完する現実的な手法の開発にも取り組んでいます。

茨城学習センター

茨城県水戸市文京2-1-1(茨城大学構内) 〒310-0056
水戸駅北口からバス約30分 電話:029-228-0683

学習センター外観



茨城県は常陸の風土記にも記されているように、古より広く関東ローム層に覆われた肥沃な大地に豊富な野菜、果物、穀物が収穫され、農業が盛んな土地です。また、寒流の親潮と暖流の黒潮がぶつかる潮目にある海からは美味しい海の幸を年中味わえる地でもあります。この海から約10km内陸側に位置する茨城大学水戸キャンパス構内に茨城学習センターがあります。

平成9年に学生の受け入れを開始した茨城学習センターは、全国で2番目に遅い後発のセンターです。しかし、4年後の平成13年には同窓会が立ち上がり活発に活動していて、元気な学生が多いのが特徴です。この中の何人かの学生に聞くと、茨城からはるか離れた地域の工業高校を出て、すぐに茨城の工業地帯に來られたとのこと。学生のサークル活動も盛んで、全国的

にもめずらしい香を聞くサークルや、ゴルフ、英会話、パソコン、数学、環境、旅行のサークルがあります。旅行のサークルではこれまでに60回を超える旅行を行っています。

茨城学習センターの歴代所長は学習意欲が盛んで、今でも放送大学の学生として単位認定試験を受けに來られています。さらに学生と一緒にゼミを開いておられ、センターでは13ものゼミが毎月開催されています。センター職員は9名。「笑顔が絶えない職場」をモットーに学生に親切に対応しています。センター内には、学生がくつろげる学生交流スペースや多目的スペースがあり、学生は静かな学習環境で熱心に学んでいます。

茨城学習センターの歴代所長は学習意欲が盛んで、今でも放送大学の学生として単位認定試験を受けに來られています。さらに学生と一緒にゼミを開いておられ、センターでは13ものゼミが毎月開催されています。センター職員は9名。「笑顔が絶えない職場」をモットーに学生に親切に対応しています。センター内には、学生がくつろげる学生交流スペースや多目的スペースがあり、学生は静かな学習環境で熱心に学んでいます。



学生研修旅行

島根学習センター

島根県松江市白潟本町43番地(スティックビル市民活動センター4階) 〒690-0061
JR松江駅より徒歩で約10分 電話:0852-28-5500



当ビル屋上より望む松江城六道湖

本年5月、文化審議会より松江市殿町の重要文化財・松江城天守が国宝指定に答申されました。松江市は、さっそく「松江城の保存管理と整備活用、歴史的景観を生かした町づくりの推進」をと喜びに満ちています。

松江城は、江戸時代初期に松江開府の祖・堀尾吉晴が築城。周辺には多くの寺院が移転され、その門前町、職人町として栄えた白潟本町に島根学習センターは位置しています。松江城と松江駅のいずれも徒歩で行ける便利な松江市役所のスティックビル市民活動センター内(4F)にあります。

島根学習センターは、現在、約570名の学生の

方が在籍され、図書・視聴室と二つの講義室において、落ち着いた雰囲気の中で学ばれています。面接授業は、通常の講義形式だけでなく、フィールドワークの授業形態も工夫しています。昨年度は、隠岐諸島にかけ、「離島から日本を変えるー海士町ー」と題して、海士町の地域再生の取組を学び、学生の皆さんから好評を得ました。本年度は、西部地区の益田市において面接授業「日本の夜明けの鍵を握る石見」の実施を計画しています。

また、平成25年度には、放送大学島根同窓会が設立されました。そして次年度、島根学習センターは、開設20周年を迎えます。地域創生が求められる今日、各地域で公開講座を開催するなど、スタッフ一同、これからも地域の知の拠点として積極的に地域貢献をすすめたいと考えています。



海士町での面接授業風景

市民自治の知識と実践('15) 基礎科目

放送大学教授 山岡 龍一 九州大学大学院教授 (放送大学客員教授) 岡崎 晴輝

大学で学ぶことの意義を実感してもらい、学習への導きとなる科目をつくるには、どうしたらよいか。社会科学への入門科目である本講義は、この課題に対して「市民自治」というテーマを設定しました。この言葉は普通の人々の能動的な生き方を表します。どんな学習も、受動的なものに留まると、効果が小さいだけでなく、楽しみの強度も上がりません。学びは、それ自体で良く、その結果も良いものとなるのが理想です。能動的な生に必要な能動的な学習を、この科目は勧めます。

「市民自治」という生き方は、理想であるだけでな



山岡 龍一 教授



岡崎 晴輝 客員教授

く、一種の現実主義でもあります。変動の激しい、複雑化の進む現代社会は、ルーティンを守るだけの生き方を許容しないでしょう。とはいえ、新自由主義者が唱える「自己責任」や「競争」の論理に従うのみなら、私たちの生は分断され、殺伐としたものになってしまう。現代社会において私たちは、「市民」として生きざるをえないのではないか、という問いがこの科目の背後にあります。この問いの意味を考える機会を、共有してみてください。

教育の社会学('15) 共通科目

大阪大学大学院教授 (放送大学客員教授) 近藤 博之 京都大学大学院教授 (放送大学客員教授) 岩井 八郎

この科目が対象としているのは、教育と社会の関係です。20世紀の後半を通して、世界中で学校制度が飛躍的な発展を遂げました。それとともに教育と社会の関係がより密接なものとなり、個人に対しても教育がこれまで以上に大きな影響を及ぼすようになりました。教育のそうした側面を社会学の観点から客観的にとらえ、現代の学校制度の特徴や問題点、さらには改善の方向を考えていくのがここでの課題です。講義では、家族、学校、ジェンダー、入試、



近藤 博之 客員教授



岩井 八郎 客員教授

就職、階層、インターネット、少年犯罪、教育政策などのさまざまな切り口を通して、この課題にアプローチします。教育と社会の関係は、たえず変化しています。教育社会学がこれまで用いてきた概念や問題設定が現在でも有効であるとは限りません。近年の学校の動きも視野に入れながら、教育の社会的な意味や働きについて、受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

「古事記」と「万葉集」('15) 共通科目

二松学舎大学特別招聘教授 (放送大学客員教授) 多田 一臣

本年四月から、『古事記』と『万葉集』と題する講義を始めました。上代(すごい命名意識です。上(かみ)つ代(よ)です。古代前期という言い方もあります)を代表する二大古典を便宜的に並べただけに見えるかもしれませんが、実は明確な意図があります。『日本書紀』が国家の歴史を目指す歴史書であるのに対して、『古事記』は宮廷の歴史、つまり宮廷史を描くことを目的としています。その『古事記』の宮廷史への指向を、『万葉集』はそのまま受け継



多田 一臣 客員教授

いでいるのです。とくにその原型部分とされる巻一、巻二にはそうした姿勢が顕著に現れています。『万葉集』もまた、宮廷史への指向をその根底に保持しているのです。『万葉集』は、単なる歌集ではなく、いわば宮廷歌集でありました。

この講義では、このような認識を基本に置きながら、『古事記』と『万葉集』の全体像をひとわたり知っていただくことができるよう心掛けたつもりです。お聴きいただければ幸いです。

英語で描いた日本('15) 共通科目

放送大学准教授 (人間と文化) **大橋 理枝**

元放送大学客員教授 (平成26年4月ご逝去) **Jon Brokering**



Jon Brokering
元客員教授(左)
大橋理枝 准教授(右)

「茶道の真髄とは何ですか?」「いけばなの極意とは?」…外国の人からこのような質問をされたら、私たちは答えられるでしょうか。お稽古をされている方なら簡単に答えられるかもしれませんが、そうでなければどうでしょう。茶道も華道も日本の誇るべき文化だからどうにか説明したいけれど、今まで一度もやったことがないのに英語でどう説明すればいいか分からない…このような経験をお持ちの方は、私以外にもきっといらっしゃるのではないのでしょうか。

普段日本で生活しているからこそ、知ろうとして

こなかったことがある—その認識を踏まえ、この科目では英語で日本を説明することを試みます。毎回の授業の前半では日本の社会や文化について私たちが書き下ろしたエッセイを読み、後半では茶道・いけばな・剣道・日本舞踊など様々な「日本的なもの」を体験してみることを通して日本の文化を英語で語ってみます。受講される皆様がこの科目を通してこれまでとは違った視点から日本を発見して下さることを願っています。

認知症と生きる('15) 専門科目

放送大学教授 (生活と福祉) **井出 訓**



井出訓 教授

メディア等で取り上げられる認知症の記事や放送に触れるたび、年を取れば誰もがばけて認知症になる、認知症になれば何もかも忘れて意味なく歩き回るようになる、家族も介護で疲れ果て悲劇的な結末を迎える等、認知症に付いて回る典型的なイメージに捕われ、ただ認知症を恐怖し、なかば脅迫的にボケないための備えをしなければと考える人も少なくはないだろう。厚生労働省は、認知症高齢者数が今後も増加し、2020年には410万人、2025年

には470万人と、65歳以上高齢者の約8人に一人が認知症と生きる時代がやってくることを予測している。しかし、こうしたデータや報道を前に私たちがなすべきことは、ただ闇雲に恐怖心を煽られることなく、しっかりと認知症に関する知識を持ち、また理解を深め、認知症と生きる人たちに学ぶことに他ならない。この授業が、認知症を知り、また認知症と生きる人たちに会い、認知症をジブンゴトとして考え始めていく手がかりとなることを期待している。

道徳教育の方法('15) 専門科目

福岡教育大学教授 (放送大学客員教授) **堺 正之**



堺正之 客員教授

道徳教育は、総合的かつ実践的な性格をもつ教育分野であり、研究の方向也多岐にわたっています。この科目では、各分野の研究成果をふまえながら、半世紀を優に超えて行われてきたという点で日本の学校教育の財産とも言える道徳教育の方法について、わかりやすく語っています。受講を通して、自身の道徳観・道徳教育観を深めてくださるよう期待しています。

2012年度に入って間もなく、放送大学から科目開設の依頼を受けたのですが、ほぼ同時期に科研採択(3年間)の通知もありました。さまざまな締切に追われ

る日々でしたが、おかげで研究成果の一端を印刷教材と放送教材に反映させることができました。

2015年の3月に学習指導要領が一部改正され、小中学校の道徳の時間は「特別の教科」として実施されることが決まっています。受講者は、このことに関心を持って情報を得るようにしてください。もし機会があれば、「教科化」の背景と主な変更点、今後の課題を含めて、授業の内容も改訂したいと考えているところです。

ロシアの政治と外交('15) 専門科目

慶應義塾大学教授
(放送大学客員教授) **横手 慎二**



横手 慎二
客員教授

ロシアは昔から、良い意味でも悪い意味でも日本の人々に多大な関心を引き起こしてきました。しかしその割には、わが国では正面からロシアの政治と外交を扱う講座が少ないのが実情です。本屋さんに並ぶロシア関係の本も、多くは時事的なテーマを扱っているために、賞味期限が短いものが多いのです。たとえば、ゴルバチョフが活躍した時代には、その政治と外交の諸問題は日本でも様々に論じられたのですが、今その時代に出た本を読んでも、現在のロシアの政

治や外交との関わりを考えることが難しいと言わねばなりません。そこでこの講義では、ロシアが国家として出発した1991年以降を主たる対象とし、現在の政治と外交を考える視点を幾つか提示しています。どこの国を対象としても存在する政治学と国際関係論を、ロシアに当てはめるとどうなるのか、欧米諸国と違うとすれば、それはどのような点なのか、この講義を通じて考えて欲しいと思います。

日本語概説('15) 専門科目

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授) **月本 雅幸**



月本 雅幸
客員教授

日本語が世界の言語の中でどのような位置を占めるか、日本語の発音にはどのような特徴があるか、日本語の文法とはどのようなものか、このような日本語それ自体に関する知識は、残念なことに余り世の中には普及していません。大学でも日本文学科、日本語教育学科、言語学科というような所以外では、なかなか学べないのが実情です。国際化の中にあって、日本人が日本語を新たな視点で見直す必要があると私は考えていますが、そのために、広く日本語についての知識を身に付けて頂ける科目を企画しま

した。これがこの「日本語概説」です。

10年ほど前、出張帰りの列車の中で、見知らぬ外国人から「日本語には2つのアルファベットのシステムがあるというが、それは本当か、またなぜか」と英語で聞われました。「2つのアルファベットのシステム」とは平仮名と片仮名です。そうです、今や外国人の中には、日本人と同じか、それ以上に日本語に関心を抱く人々がいるのです。皆さんはこの質問にどうお答えになりますか? (正解は印刷教材、放送教材の中で示しました)

エネルギーと社会('15) 総合科目

東京大学生産技術研究所教授
(放送大学客員教授) **迫田 章義**

東京大学生産技術研究所特任教授
(放送大学客員教授) **堤 敦司**



迫田 章義
客員教授



堤 敦司
客員教授

人類の社会・経済活動の拡大・高度化に伴い、現代社会はエネルギー・資源の枯渇の問題、そしてそれに関連した様々な地球環境問題、なかでも特に地球温暖化問題に直面している。また、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、エネルギーセキュリティも注目されるようになり、エネルギー問題が国民の大きな関心事となっている。これらのエネルギー問題・地球温暖化問題等の総合的な解決を図るには、エネルギーに関わる科学技術だけでなく、エネ

ギーと社会科学、経済、政治、さらには産業構造、社会システムまでの関連、つまり「エネルギーと社会」について、総合的に考えていく必要があり、幅広い知識が求められる。そこでこの講義では、エネルギーと社会や経済との関連を様々な視点から考察し理解を深めるとともに、主に工学的・技術的観点から、エネルギーの基礎と応用からエネルギー問題の社会的な側面までを含めて俯瞰的かつ系統的に学習する。

家族生活研究('15)―家族の景色とその見方―

奈良女子大学名誉教授 清水 新二 放送大学副学長 宮本 みち子
(放送大学客員教授)



清水 新二
客員教授



宮本 みち子
副学長

旧版『家族生活研究』の出版から6年が経過しました。この間、社会全体を覆う大きな潮流の変化がありました。欧米では競争と効率化を旨とする規制緩和策が一層進み、安価な労働力の移動、失業問題と家族生活の困窮化、格差拡大と社会の分断などが、より顕在化しています。そして日本も例外ではありません。一見小さく閉じられたようなプライベートな家族生活の世界ですが、そうではなくむしろ今日では家族生活は益々全体社会の影響をより強く直接的に受けています。とりわけ近年ではグローバル化の影響は決定的に大きなものとなり、家族と社会の関係も大変複雑な性質を見せています。この大波に洗われる体験を通じて私たちの家

族生活の景色もまた少しずつ変わってきています。

今回の改訂版で特に意識した日本社会の変動局面としては、(1)少子高齢化の益々の進展、(2)グローバル化の大波、(3)本格的な格差社会への突入、そして(4)東日本大震災と原発事故などです。本書では家族の景色の見方の基本を提供してくれるベースとしてライフコース論、家族・生活システム論、相互作用論などの学習機会も用意されています。私たちの家族生活へのグローバル化の浸透と新たな問題の浮上は、ますます「生活者」の視点の重要性を要請していると思われま

発達心理学特論('15)

上智大学教授 荻野 美佐子
(放送大学客員教授)



荻野 美佐子
客員教授

社会が複雑化し、さまざまな心理的支援を必要とする人々がいます。こうした人々にかかわる専門職として、臨床心理士が現代の社会の中で求められています。この科目は、臨床心理士の資格にかかわる選択必修科目の1つとなっています。もちろん、人の発達を理解することは、これら専門職だけでなく、どのような人にとっても重要なことと考えます。

私たち自身が自らの生をどのように捉え、意味づけ

ていくのか、そこにどのような社会・文化の影響を受けているの

か、といったことについて理解の枠組みを持つ必要があります。人は誕生から死に至るその生涯発達の過程で、どのように変化していくのでしょうか。人の心の発達におけるいくつかの領域ごとにその生涯発達をおさえるとともに、乳児期から老年期に至る時間の中で、トータルな存在としての人が各時期にどのような生を紡いでいるのかを見ていきたいと思います。

地域の発展と産業('15)

放送大学教授 河合 明宣
(社会経営科学プログラム)



河合 明宣
教授

地域に対する関心が深まっている。それは人類にとって初めてともいえるグローバル化の影響が日々の生活に浸透しているからである。私たちの生存は、一次から三次産業に及ぶ様々な生産活動を通して食料を得て可能となる。近代以降の国民の生存は、外交・貿易による国家間関係の調整を通じた産業政策に依存している。国民国家の枠内で産業の発展と生活の質の向上が追求され、諸国の地域毎に個性豊かな景観や生活が実現されていたのである。

しかし、グローバル化は、この国民国家の役割を極めて小さく

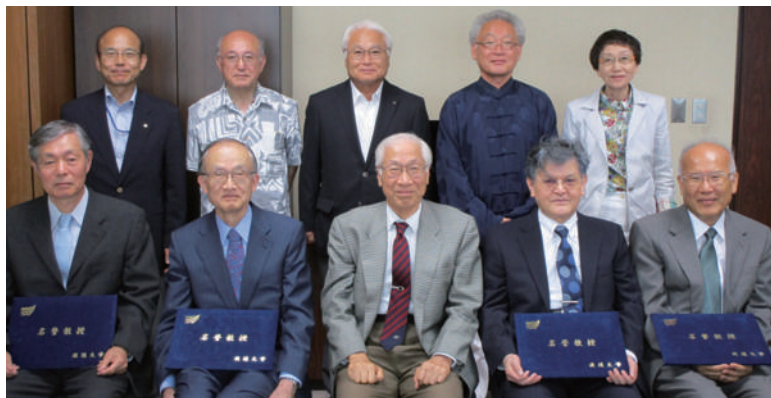
しつつある。モノ、人、金、情報が国境を自由に越える中で、外発的要因が強く働き、私たちの望む働く場や生活を確保する方策が見えなくなり、私たちの希望を自分たちの手で実現する方法を失いかけている。この問題を捉えて、どう解決をはかるのか、これがテーマである。社会・人文科学分野で積み上げられた地域研究を概観し、自然環境、地域、産業、生活・幸福感における持続性や内発的発展を考えたい。



「名誉教授称号授与式」が挙行されました

総務課

6月15日(月)に役員応接室において、昨年度3月末に退任された濱田嘉昭前教授、川合慧前教授、住田正樹前教授及び高木保興前教授に対し、岡部学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。今回の称号授与により、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから、放送大学名誉教授の称号を授与された方々は31名になりました。



前列左から 濱田名誉教授、川合名誉教授、岡部学長、住田名誉教授、高木名誉教授
後列左から 吉田事務局長、吉田附属図書館長、小寺山副学長、來生副学長、宮本副学長



平成27(2015)年度第2学期面接授業科目の追加登録

学習センター支援室

10月から始まる第2学期面接授業について、空席がある科目は追加登録をすることができます。

空席発表日		10月17日(土)12時
追加登録期間	10月～1月 開講の授業	10月23日(金)～科目ごとに定められた追加登録受付期限日まで (原則として開講日の1週間前)
	2月 開講の授業	10月23日(金)～1月17日(日)まで

空席状況(追加登録の対象となる科目)は、空席発表日に、各学習センターの提示・キャンパスネットワークホームページでお知らせします。10月23日(金)15時以降は、システムWAKABAで空席状況をリアルタイムで確認することができます。

受講したい科目の空席状況をご確認のうえ、登録受付期間内に、該当科目を開設する学習センター・サテライトスペースへ窓口もしくは郵送にて申請してください。

※申請には、面接授業科目追加登録申請書、学生証(コピーは不可)・授業料5,500円(1科目)が必要です。
※申請方法等は、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースへ直接お問い合わせください。



編 集 後 記

放送大学では昨年10月に博士課程が発足し、学部から博士までのパスが完成しました。本号では早速博士課程1期生の方々にご登場いただき、大学院特集を組んでみました。皆さんどんな印象を持たれたのでしょうか。私の所属する自然科学プログラムでも、先日博士課程の研究発表会が行われました。正直なところ、自分の専門分野外の発表については繰り出される用語の意味が分からず、全体像をぼんやりつかむのがやっとという状況でした。しかし、皆さんの研究テーマに対する情熱と気迫は存分に伝わってきました。時空を超えた人々の葛藤がいつの間にか自分自身の中に入り込んで差し迫った問題になっている。研究とはそのようなものだと思います。今後、この興奮を放送大学の多くの学生さんと共有できたらと思います。(編集委員長・岸根順一郎)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2015年度)

委員長	教授	岸根 順一郎
委員	教授	井出 訓
	教授	御厨 貴
	教授	島内 裕子
	准教授	岡崎 友典
	准教授	芝崎 順司
	准教授	安池 智一
オブザーバー	副学長	小寺山 亘
編集事務担当		総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369